

国際機関と共にインクルーシブ防災を考えるセミナー
2023.8.24



東日本大震災の障害者の被害状況と障害当事者 の支援活動の実際と課題



誰も取り残されないインクルーシブ防災

DPI日本会議 事務局次長
自立生活センターSTEPえどがわ代表
今村 登

自己紹介

- 1964年 長野県飯田市生まれ
- 1993年 一言では説明困難な状況で受傷
(首の骨を折って頸髄損傷:四肢麻痺)
- 1995年 阪神大震災時は国リハのベッド上
- 2002年 STEPえどがわ設立
- 2011年 東日本大震災の4日前に原発を
テーマに映画上映
&トークライブ
- 2011年 東北関東大震災障害者救援本部
広報担当
- 2016年 熊本震災障害者支援にも関与



今日お話しすること

I. 写真で振り返る災害

- ・東日本大震災
- ・熊本大震災
- ・西日本豪雨

2. 災害と障害

- ・I .救援本部の立ち上げ
- ・II .浮かび上がった問題点
- ・III .障害に関する情報提供
- ・IV .復旧から復興へ(提言)

2011.3.11 東日本大震災



入所者・スタッフ100名が犠牲に



入居者、スタッフ合わせて約200人のうち、半数の100名が犠牲になったそうです…



火力発電所の大型クレーンが、
ぐにやっと曲がってしまっています・・・

あたり一面、この状態



あちらこちらにひっくり返った車、打ち上げられた漁船、がれきと化した住宅…



海岸線沿いの集落：全部流された

いわき市沿岸部



1階部分がつぶされて、2階が下に落ちてた家屋

看板の下くらいまで波の跡が・・・





東洋一の堤防が破壊された

車椅子ユーザーの仮設住宅なんですが…



玄関に階段が2段

集会所

個別の仮設住宅にはスロープがないが、集会所にはスロープがあり、中に車椅子対応トイレがあった



集会所には、広い車椅子対応トイレがありました



大規模災害 と、続く被害 の集中

- 1995年 阪神淡路大震災
- 2004年 新潟中越地震
- 2011年 東日本大震災
- 2016年 熊本地震
- 2018年 大阪北部地震
西日本豪雨
台風21号
北海道胆振東部地震
- 2019年 台風15号
(千葉県で被害)

台風19号
(東日本各地で大規模水害)

I . 障害者救援本部の立ち上げ

I - ①いま、なにをすべきか (救援本部の設立)

召集者

故)三澤 了氏
(DPI日本会議議長:当時)



検討事項(三澤メモ)

- 誰を対象に何をやるか
 - ・被災地の障害当事者を対象
 - ・安否確認、介助等
- 想定される支援活動
 - ・状況把握
 - ・財政支援、人材派遣等
- 支援体制について
 - ・責任者
 - ・拠点、カウンターパート
 - ・どの時点まで活動するか等

I -②被害状況

障害者の死亡率は全体の死亡率の約2倍!

県	全 体			障害者手帳交付者		
	人口(人)	死者(人)	死亡率	人口(人)	死者(人)	死亡率
岩手県	205,437	5,722	3.2%	12,178	429	3.9%
宮城県	946,593	10,437	2.4%	43,095	1,099	3.8%
福島県	522,155	2,670	1.0%	31,230	130	1.2%
3県合計	1,674,185	18,829	1.1%	86,503	1,658	1.9%



Ⅱ. 浮かび上がった問題点

II-①避難所に障害者が居ない

- **避難所に行くことができない現実**
 - ・そもそも避難所まで自力では行けない
- **避難所に居ることができない現実**
 - ・行けたとしても、段差、スペース、偏見、無理解等による排除
- **機能しない福祉避難所**
 - ・場所が不明
 - ・受け入れ可能人数が少ない（職員もいない）
- **在宅被災者に行き届かぬ支援**
 - ・情報も物資も届かない

II-②自立生活者が居ない

- ・津波の被災地は、そもそも自立生活（一人暮らし）を営む障害者が、ほとんど居ない地域だった。
- ・多くが施設入所

II-③行政の壁 (個人情報保護、介助制度、教育、まちづくり)

- 分離教育の弊害!
 - 地元の普通学校に通っていた障害児Aさんは受け入れられ、遠く離れた特別支援学校につれていたBさんは排除された。
- 障害当事者抜きのまちづくり(バリアフル)が仇(あだ)に!
 - サイレン、放送が機能しない
 - 高台への避難経路が階段、サインが分かりにくいういetc…

IV. 復旧から復興へ（提言）

克服するんじやなく、ありのままで!---自然、障害

- 日本一と言われたスーパー堤防でさえ、3.11の津波で破壊された。その他多くの建造物もことごとく破壊された。

我々はここから何を教訓とし、どちらに向かうのか？

「自然を克服する」という発想

もっと頑丈で高い堤防を作って、自然の猛威を克服できる街づくりをする!
(景観、環境破壊はお構いなし)

「自然と共生する」という発想

時に自然は猛威を振るうことがあるということが当たり前として、工夫して受け入れる街づくり。
(自然の恵み、景観に感謝)

Or

もっと頑丈な原発を造る!
(壊れることは想定しない、低線量被ばくは無視、差別の継続)

誰かの犠牲の上でしか成り立たない原発、ひとたび事故を起こしたら取り返しのつかない原発はやめて、多様な自然エネルギーにシフトする。

障害はない方がいい。もっと訓練して克服するもの。乗り越えるべき。それができないのは自己責任。弱肉強食、格差・差別容認の社会

どちらが生きやすい社会?

障害も含め、ありのままでいいじゃない!多様性を認め合えるインクルーシブな社会

共に暮らせる地域作りに向けて

- 災害支援で見えてくるのは、日頃、障害者が置かれて
いる孤立した状態
- 災害は、日頃の取り組みの中で、不足しているものを
明らかにしてくれる
- 災害支援の大きな波が引いてしまった後に残るのは、
地域社会から孤立した日頃の障害者の生活
- 自立しているように見えても障害福祉村での生活
- 一過性の災害支援だけでは、問題は解決しない
- 共生社会の構築に向けた日頃の地域作りの取り組み
が求められる

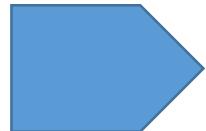
災害時は、日常の問題が顕在化する

阪神、東日本、熊本などの大震災、西日本豪雨、etc…

- 災害によって問題が生じるものばかりではない。
- むしろ、日常抱えている諸問題（構造、制度、人間関係など）が顕在化する。



インクルーシブ社会が
重要!



障害者権利条
約の実現

自助・共助・公助は優先順位じゃない

- ・防災、社会保障で行政がよく使う「自助、共助、公助」は「優先順位じゃなく役割分担で、互いに連携し合い同時並行で進行するものに！
・本人の努力や家族の努力・支援も重要だが、自助が最優先順位であることと思い込む必要はない。
・公助が保障されることで自助・共助が成り立つ事が多い。

みんなが助かる、みんなで助けるインク
ルーシブ防災を
「みんなで考える」

- ・当事者参画
- ・要求、交渉から提案、協働（共同）へ

教育・防災・まちづくり
全てインクルーシブに！

END

ご清聴、ありがとうございました。